

令和元年度

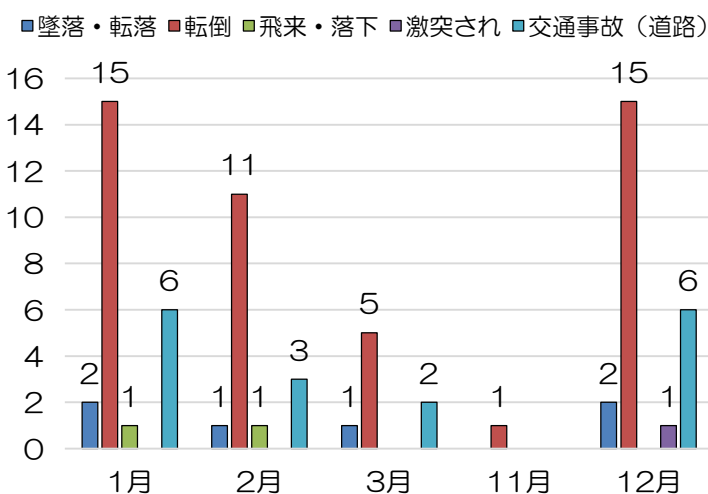
『冬季労働災害防止運動』展開中

運動期間: 令和元年11月1日から令和2年3月31日まで

降雪、低温及び強い季節風等の冬季特有の気象条件の影響により、積雪・凍結・寒冷による転倒災害、屋根除雪中の墜落災害及び交通労働災害等が多く発生していることから、冬季特有災害の防止に取り組みましょう。 ※「冬季労働災害」とは、冬季特有の気象条件の影響を受けた災害を表します。

平成25年から平成30年までに発生した 冬季労働災害の発生状況

1 月別・事故の型別



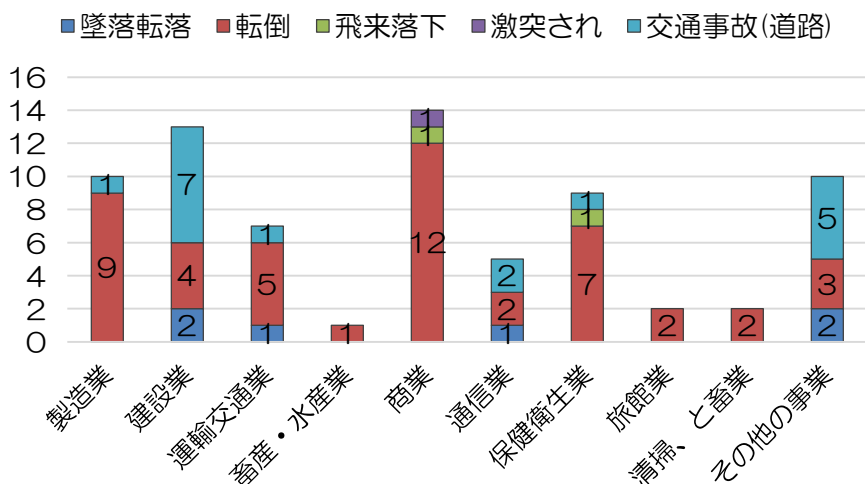
二戸監督署管内において、平成25年から平成30年までに発生した冬季労働災害は、73件発生しています。

そのうち、1月と12月を合わせると48件発生しており、全体の65.7%を占めています。

事故の型別では、転倒災害が最も多く47件(64.4%)、次いで交通労働災害が17件(23.3%)となっています。

平成25年から平成30年までに発生した 冬季労働災害の発生状況

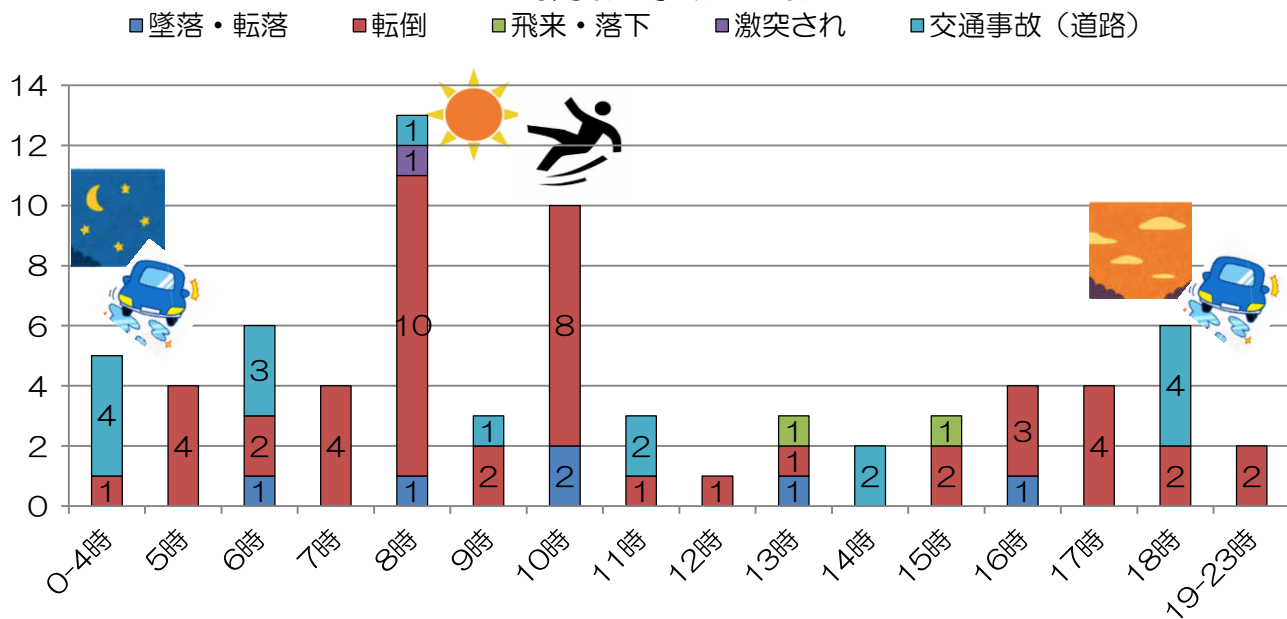
2 業種別・事故の型別



建設業及びその他の事業(ブローラー関連事業)については、1台の車両に複数の労働者が乗車して現場に移動していることから、1回の交通事故で多数の被災者が発生しています。

平成25年から平成30年までに発生した冬季労働災害の発生状況

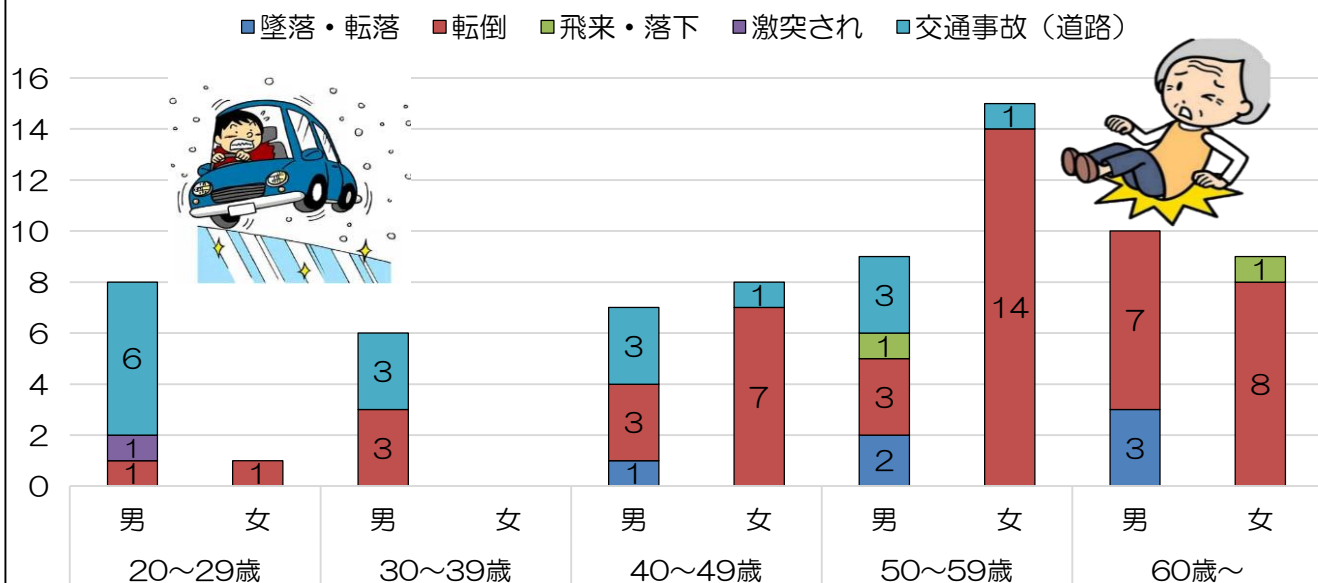
3 時間別・事故の型別



転倒災害は、出勤時間帯である8時台が最も多く、次いで日光が当たり融解した10時台が多くなっています。特に、職場の駐車場や事業場の敷地内での転倒災害が多発しています。交通事故は、早朝と夕方に多く発生しています。

平成25年から平成30年までに発生した冬季労働災害の発生状況

4 男女年齢別・事故の型別



転倒災害について、40歳以上の女性で顕著に多く発生しています。なかでも、高齢女性の転倒災害が多発しているのは、筋力の衰えによるものと考えられます。

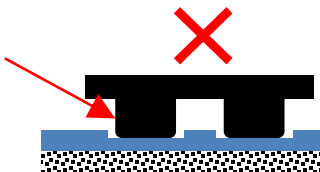
交通事故について、20~29歳までの男性で多く発生しており、冬道の自動車の運転に不慣れであるものと考えられます。

1 凍結面などでの転倒災害の防止

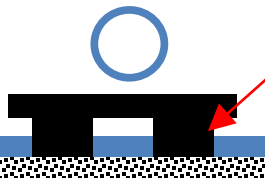
滑りやすい作業路での安全な歩き方は、ゆっくりと狭い歩幅で上から歩行面を踏みつけるようにし、倒れたらいつでも手をつけるように両手を空けておきましょう。

トレッドの先端部に丸みがあり、床面に密着していない。

耐滑性 小



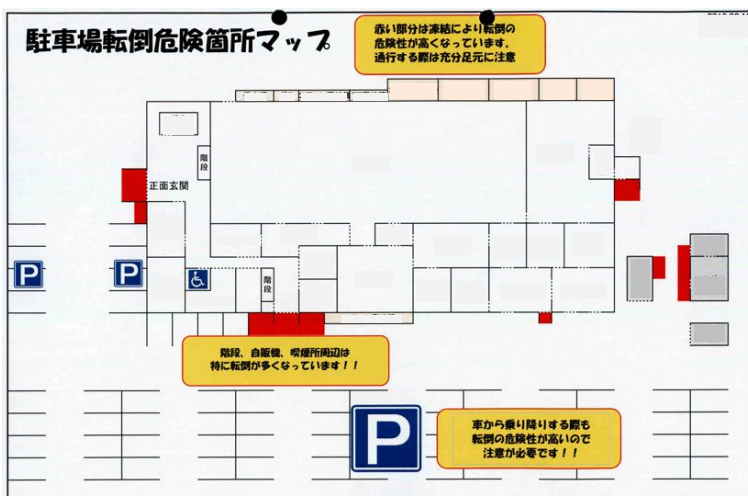
耐滑性 大



トレッドの先端部が直角で鋭く、床面に密着している。

2 各事業場の転倒災害防止対策事例

(1) 転倒危険マップの作成の例



転倒が発生しやすい箇所を示した事業場内の「転倒危険箇所マップ」を作成し、掲示板等に掲示して周知している例です。

特に転倒が発生しやすい**玄関付近、階段**は、目立つように**赤色**で示しており、一目でわかりやすいように工夫しています。

なお、外国人労働者がいる場合には、母国語も併せて表示しましょう。

(2) 現場事務所に風除室を設置した例



現場事務所の出入口に、ポリカ波板と木材で製作した**風除室**を設置し、出入口付近の積雪や凍結を防止している例です。

また、安全に昇降できるように脇に階段を設置しています。

(3) 屋内の階段に音声ガイドを設置した例等



写真右：屋内での転倒防止のため、階段を昇降する際の注意事項を作成し掲示している例です。

写真左：階段を昇降する際、音声ガイドにより注意喚起している例です。

3 その他冬季特有災害防止対策



除雪作業

小型除雪機のシュートやオーガに詰まった雪を除去する場合は、必ず機械の運転を停止し、停止したことを確認してから除去しましょう。

車両系建設機械により駐車場等敷地内の除雪を行う場合には、あらかじめ、障害物の位置等を確認し、運転者に情報提供しましょう。また、業者に委託する場合も同様に情報提供しましょう。



交通労働災害

時間に十分な余裕を持った移動計画を立てましょう。

控えめな速度、十分な車間距離など路面状況に合わせた安全運転を心掛けましょう。

やむを得ない場合を除き、急ハンドル、急ブレーキは止めましょう。

橋の上、トンネルの出入口及び日陰部分では、速度を控えめにしましょう。

冬道の安全運転1・2・3運動

- 1割、スピードダウンしよう
- 2倍、車間距離を取ろう
- 3分、早めに出発しよう